

【No.R5-10-2】みどりの食料システム戦略緊急対策交付金のうちグリーンな栽培体系への転換サポート

## 産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体  
都道府県  
対象地域  
対象品目兵庫県  
兵庫県  
洲本市、淡路市  
タマネギ

## 新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

- 石灰窒素施用による化学合成農業低減技術

## 目指す姿

兵庫県では、「環境創造型農業推進計画（第2期）」に基づき、土づくり技術を基本とし、化学肥料や農業に過度に依存しない、地球環境や生物多様性に配慮した「人と環境にやさしい農業」を推進している。一方、タマネギ栽培では、淡路地域を中心にべと病対策が重要な課題となっており、現在は農業散布による予防を行うことで、発生や蔓延の抑制を図っている。耕種的防除として、45日以上の湛水管理は高い効果があるものの、水利条件の制約から、すべての地域で実施することは困難である。そこで、前作収穫後に石灰窒素を散布する方法が、タマネギべと病の発生抑制に効果があるとされていることから、地域条件に左右されにくい防除技術として普及を進め、農業使用量の削減を目指す。

## 現在の栽培体系（慣行たまねぎ）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		収穫	←	収穫			播種		←	定植	→	定植	農業散布
技術名													

## 新たに導入するグリーンな栽培体系（石灰窒素の施用）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		収穫	←	収穫	石灰窒素施用		播種		←	定植	→	定植	
技術名					一次株次抑感								

## グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	R4	R7	目標(R12)	備考
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0	0.2	10	
環境にやさしい栽培の取組面積 (ha)	0	0.2	10	
多収穫品種栽培面積	0	0.2	10	

## 環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

## 〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学農業による防除	石灰窒素施用による一次伝染発病抑制	化学農業の削減

## 〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学農業（成分）の使用回数	69回	68回	一次伝染抑制による、予防回数の減（1回）

\*環境にやさしい栽培技術のうち化学農業・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

\*化学農業の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかを分けるように記載する

## グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

淡路島管内のタマネギほ場のうち、地理的な要因で長期間の湛水による伝染低減が実施できないほ場を対象とし、生産者への周知や現場での技術指導を通じて普及・定着を図る

## 関係者の役割

関係者名	農業改良普及センター	農林水産技術総合センター	農業改良課	JA
役割	技術指導、講習会等での実証結果周知	普及センター技術指導支援	実証結果の発信	生産者への情報提供

## その他